

令和7年小山町高校生議会会議録

令和7年11月15日

召集の場所 小山町役場議場

開 会 午後1時00分 宣告

出席議員 1番 鈴木志緒理君 2番 櫻井 伊織君  
3番 日比野早希君 4番 徳田 唯花君  
5番 原田 和奏君 6番 小池 葵君  
7番 伊藤 春奈君 8番 近藤 志音君  
10番 梶 碧桜君 11番 佐藤 美有君  
12番 渡邊 瑛太君

欠席議員 9番 佐々木眞之介君

説明のために出席した者

町 長	込山 正秀君	副 町 長	室伏 博行君
教 育 長	勝俣 純君	政 策 監	湯山 博一君
理 事	鷺巣 春人君	企 画 総 務 部 長	長田 忠典君
経 済 産 業 部 長	岩田 幸生君	都 市 基 盤 部 長	清水 良久君
教 育 次 長	大庭 和広君	総 務 課 長	渡邊 徹君
総務課総務法規・監査班長	山口 紘史君		

職務のために出席した者

議 会 事 務 局 長	杉山 則行君	議 会 事 務 局 書 記	鈴木 史幸君
-------------	--------	---------------	--------

閉 会 午後2時22分

(議 事 日 程)

開会の宣告

日程第1 議席の指定

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

1番 鈴木志緒理君

2番 櫻井 伊織君

地域の住民の安全と生活について

3番 日比野早希君

4番 徳田 唯花君

メディアを使った小山町観光推進について

5番 原田 和奏君

6番 小池 葵君

7番 伊藤 春奈君

地域と高校生の連携について

8番 近藤 志音君

10番 梶 碧桜君

11番 佐藤 美有君

笙陵祭を通じた小山高校性と小山町の交流について

閉会の宣告

議

事

午後 1 時 00 分 開会

○議長（渡邊瑛太君） 本日は、よろしく申し上げます。

ここで、報告します。

佐々木真之介君は、本日の会議を欠席する旨、届けが出されておりますのでご報告します。

また、小山町議会傍聴規則第 7 条第 4 号の規定により、本日は、傍聴席でのビデオ・カメラの撮影及び報道関係者等による議場での記録用写真の撮影を、議長において許可しておりますので報告します。

ただいま、出席議員数は 11 人です。

出席議員が定足数に達しておりますので、小山町高校生議会は成立しました。

ただいまから令和 7 年小山町高校生議会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめ配布しましたとおりですから、朗読を省略します。

---

日程第 1 議席の指定

○議長（渡邊瑛太君） 日程第 1 議席の指定を行います。

議席は、小山町議会会議規則第 4 条第 1 項の規定を準用し、議長が指定します。

議席は、ただいま着席の議席とします。

---

日程第 2 会期の決定

○議長（渡邊瑛太君） 日程第 2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。本議会の会期は、本日 1 日としたいと思います。これにご異議はありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（渡邊瑛太君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、11月15日の 1 日と決定しました。

---

日程第 3 一般質問

○議長（渡邊瑛太君） 日程第 3 これより一般質問を行います。

今回の質問は、グループで質問を考えたものです。また、再質問については、町の 1 回目の回答に対して行います。

それでは質問者は、登壇し、質問願います。

通告順により、順次発言を許します。

初めに、1 番 鈴木志緒理君、2 番 櫻井伊織君

○1 番（鈴木志緒理君） 2 人を代表して、地域の住民の安全と生活について質問します。現在あ

る課題の中で、私達は次のことに着目しました。

一つ目は、街灯の設置についてです。小山高校へつながる通学路は街灯が少なく、これからの季節は、部活動が終了する頃にはほとんど真っ暗になってしまいます。学生がそのような道を歩くことは防犯の面でも危険ですし、すぐそばには山や崖もあるので、安全上の危険もあります。そこで、小山高校へつながる通学路に、街灯を増やすことはできるのかお聞きします。また、街灯の設置が難しい場合、代替案として蓄光シートを活用するのはどうでしょうか。以前の高校生議会でこのような議題について話し合われた際、街灯の設置の代わりに、小山高生がデザインした反射板キーホルダーが配布されました。反射板キーホルダーは、自動車側から歩行者の認識を可能にし、交通事故を防ぐ面ではとても良い案です。しかし、反射板キーホルダーをつけていても、歩行者の視界は暗いままであり、足元の安全や防犯の面では効果が期待できません。その点、蓄光シートは街灯ほど予算もかからず、歩行者からも道路が見やすくなります。蓄光シートを活用した取り組みは大阪府枚方市や千葉県佐倉市、習志野市などで実際に行われていることから、安全性や快適性に十分効果が期待できます。

二つ目は、小山町の商業施設についてです。小山町には便利な店が少ないと感じます。足柄など一部の地域では歩いて行ける距離にスーパーがないこともあり、高齢者にとっては特に不便だという声がありました。成美地区のマックスバリュは、小山町の方々が話し合いを何度も重ねてくださった結果、開店できたものだとお聞きしました。その件を踏まえて、成美地区以外にも生活が豊かになる店の設置を検討していただきたいです。それにより、小山町の利便性が向上し、魅力的な町になると思います。これから移住する人にとっても、生活しやすい町になると思います。

以上の点について、町の考えをお聞きします。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○都市基盤部長（清水良久君） 鈴木志緒理議員、櫻井伊織議員のご質問のうち、私からは、一つ目の通学路の街灯の設置についてお答えいたします。

小山高校の通学路は静岡県が管理しております。県道御殿場大井線及び小山町が管理している町道2082号線と町道2155号線、さらに階段付近の歩行者通路は私有地内の道路となっております。

現在の街灯の設置状況であります。県道御殿場大井線の歩道側に街路灯が6基、町道2路線に防犯灯が4基、私有地内道路に防犯灯が2基の合計12基が設置されています。

初めに、通学路に街灯を増やすことができるかについてであります。静岡県が管理しております県道の街路灯につきましては、小山高校の生徒からの声として積極的に静岡県に対し、街路灯の増設を要望してまいりたいと考えます。

また、町道及び私有地内道路に設置しています防犯灯につきましては、設置や電気料金等の費用を地元区が負担していることから、今後、地元区との協議を進め、検討してまいりたいと考えております。

次に、街灯の設置が難しい場合の代替案としての蓄光シートの活用については、本町でも、今

後、取り組むことといたします。やりましょう。

今回、鈴木、櫻井両議員から、大変素晴らしいご提案をいただき、町の建設課でも、県内外の他市町の事例や製品メーカーのホームページなどから実例を確認いたしました。

その結果、蓄光シートにつきましては、まだ試験的に使用しているところが多く、施工実例が少ない面はございますが、避難誘導表示などに使用され、視認性に優れており、即効性があるものと考えております。

したがいまして、本町でも蓄光シートの活用については、今後も他市町の施工状況を研究しながら、試験的に小山高校の通学路へ設置し、安全安心で特色のある通学路を整備していきたいと考えております。

以上であります。

○企画総務部長（長田忠典君） 私からは、二つ目の商業施設の誘致についてお答えいたします。

小山町の商業施設について、特に高齢の方や車を持っていない方にとって、買い物が不便だというお話は、町としても大切な課題だと考えております。

町内では、地域によってお店の数や種類に違いがあり、例えば、足柄地区や北郷地区などでは、徒歩で行ける範囲にスーパーがないといった状況があります。こうした地域の課題を解決し、どの地域に住んでいても安心して暮らせるようにしていくことは、これからの小山町にとっても重要なことだと考えております。

ご質問にもありました成美地区や須走地区のマックスバリュは、いずれも事業者と町が連携し、地域のニーズを踏まえて実現した商業施設であります。これらの店舗ができたことで、地域の皆さんの生活が便利になり、多くの方に喜ばれていると感じております。町としても、こうした好事例を参考にしながら、他の地域でも暮らしを支える店舗の誘致等に取り組んでいきたいと考えております。

特に、町長のマニフェストにもありますように、北郷地区への新しい商業施設の誘致を進めております。北郷地区では、以前にJAのスーパーがなくなってしまったことで、「買物が不便になった」という声を多くいただいております。そこで町では、市街化区域内の土地を有効に活用し、人が集まり、賑わいが生まれるような商業施設の実現を目指しております。現在、複数の事業者の方々と誘致について進めているところであります。

また、町では大型の商業施設だけではなく、買い物支援の一つとして、ローソンとマックスバリュの企業による移動販売も既に始まっております。この取り組みは、高齢の方や交通手段のない方にもできるだけ身近な場所で買い物をしていただけるようにするものであります。今後も地域の状況を見ながら、こうした活動を継続、充実させていきたいと考えております。

町としては、こうした様々な取り組みを進めることで、皆さんが安心して暮らせる小山町を作りたいと思っております。そして、町民の皆さんや若い世代の皆さんの声をしっかりと聞き、「住んでよかった」「これからも住み続けたい」「移り住みたい」と思えるような、魅力あるまちづく

りを進めてまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○2番（櫻井詩織君） 再質問をします。

蓄光シートを小山高校の通学路に試験的に設置する件について、追加で提案があります。

蓄光シートを活用した取り組みを行っている習志野市では、市の人気ご当地キャラクター「ナラシド♪」が蓄光シートに描かれています。そこで、小山高校の通学路には、小山高校のマスコットキャラクター「小太郎くん」をモチーフにするのはいかがでしょうか。そうすることで遊び心が生まれ、歩くのが楽しい歩道になると思います。

町のお考えをお聞かせください。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○都市基盤部長（清水良久君） 櫻井詩織議員の再質問にお答えします。

蓄光シートのデザインに小山高校のマスコットキャラクターを使用することのご提案についてであります。建設課でも、習志野市の取り組みはホームページ等で確認しております。

蓄光シートのメーカーに確認したところ、ある程度のデザインは対応できるとのことですので、ご提案いただいた「小太郎くん」のデザインも上手に取り入れながら、安全で楽しい通学路となるよう検討を進めてまいりたいと考えております。

皆さんも将来、小山町役場職員になって、町内の道路や橋、河川などで、今回のように元気なアイデアを存分に実現していただくことを期待しております。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○1番（鈴木志緒理君） 再質問をします。

北郷地区の商業施設設置は嬉しい政策です。ですが、足柄地区にも同様にスーパーと呼べる施設がございません。足柄地区には何か商業施設は検討されていますか。

町の考えを伺います。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（長田忠典君） 鈴木志緒理議員の再質問にお答えします。

現在のところ、足柄地区でスーパーなどの商業施設についての検討については特にしていない状況であります。足柄地区においても、買物に便利なスーパーなどがあった方が良いとは思いますので、誘致の可能性も含めて検討していくべきと考えております。

現在買物等にご不便をかけて恐縮ではありますが、先ほど答弁いたしました通り、移動販売を利用していただいたり、街の巡回バスやデマンドバスなどの活用していただきたいと考えております。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再々質問はありませんか。

○1番（鈴木志緒理君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（渡邊瑛太君） 次に、3番 日比野早希君、4番 徳田唯花君。

○3番（日比野早希君） 2人を代表して、メディアを使った小山町観光推進について質問します。

小山町には様々な良いところがあります。しかし、それが世間に知られていないことが問題だと考えます。実際に、令和5年の静岡県のスポーツ文化観光部の調べでは、1,000人以上の集客があるイベントや観光施設の数は、隣の御殿場市56に対し小山町は27となっています。実際に小山町には観光地となりそうなところはたくさんありますが、特段観光地化やアピールをしていない印象があるため、小山町の観光面は未発達な部分があると考えます。

そこで私達は小山町の観光をもっと栄えさせるために、小山町には様々なメディア作品の舞台、いわゆる「聖地」があるという特長を生かした「小山町メディアマップ」を作ることが効果的でないかと考えます。

私達が考える小山町メディアマップとは、作品の舞台を巡るということで、あちこちを移動するのに荷物になりにくく、広報しやすいデジタル資料にし、小山町の地図にメディアの舞台やスポット周辺のお店などの情報、一言コメントを加えたものです。これであれば小山高校生の地域探究としても取り組むことができるので、高校生としても地元や自分の高校がある地域について関心を持つ良い機会になるのではないのでしょうか。

小山町メディアマップを作るメリットとしては、マップを通じて、小山町の自然や昔ならではの雰囲気など、良いところを発信することができ、最近注目されている「聖地巡礼」にもなるので、今まで小山町にあまり関心を持ってこなかった若年層やアウトレットや富士スピードウェイに向かう観光客にアピールすることができるのではないのでしょうか。

実際に浜名湖周辺の館山寺という地域でも、地元高校生が観光マップを作ったという事例があり、テレビや新聞などにも取り上げられたそうです。実際に青少年交流の家で行われた地域探究イベントに参加し、お話を聞かせていただきましたが、地元の今まで知らなかった一面に触れることができ、より理解を深められたとおっしゃっていました。そのため小山高校でも学校の総合探究の時間で自分の学校がある土地、地元を深く理解するための時間としてメディアマップの制作することも可能ではないかと考えます。

小山町HPに観光案内があるかもしれませんが、地域のホームページを見る人は、そもそもその地域に興味関心を抱いた人だと思うので、そうでなく、小山町のことを知らなくてもふらっと立ち寄れる、そんな気軽なものが必要だと考えます。

以上の点について、町のお考えをお聞きます。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（長田忠典君） 日比野早希議員、徳田唯花議員のご質問にお答えします。

小山町では、町全体を映像制作のメッカにすることを目指して、平成14年からフィルムコミッション事業を開始しました。平成28年6月には、NPO法人小山町フィルムコミッションが設立し、町とNPO法人が連携してドラマや映画、ミュージックビデオやコマーシャルなど様々なメディアの制作支援をしてきました。その支援数は、平成14年から数えて2,900本を超え、小山町の各所が様々な作品の舞台になっております。

代表的なロケ地は、小山高校の近くのスタジオのある小山フィルムファクトリーを始め、豊門公園や誓いの丘、総合文化会館など各所にあり、ここ小山町役場でも撮影が行われております。

小山高校におきましても、ドラマの撮影をさせていただいたり、またエキストラとして生徒さんにもご協力いただいたりしてまいりました。

今回のご質問にありますメディア作品の「聖地」となるロケ地を紹介することについては、小山町フィルムコミッションや町のホームページでロケ支援実績を掲載しておりますが、ロケ地マップの作成まではいたっておりません。熱心なファンは、自分でロケ地を探し出して聖地巡礼しておりますが、さらに興味を引く情報を提供できれば、周辺にも足を伸ばしていただけると考えられます。その意味では、地図を片手に町内を回遊しながら、消費活動につながる効果が期待できるロケ地マップは、町の魅力向上にもつながりますので、作成に向け準備を進めてまいります。

なお、ご提案のマップはデジタル資料とのことでありますが、まずは第一段階として紙のマップを作り、駅や道の駅、公共施設などに置いて、手に取ってもらうことから始めていければと考えております。

その次の段階として、デジタルマップでの発信に向けて、どのようなツールが効果を生みやすいのか、また、掲載する情報の整理や拡散方法などを研究し、気軽に見て利用できる最適な方法を、小山高校の皆様とも一緒に検討できればと思っております。

ロケ地マップは、様々な年代の方に興味を持っていただける新たな観光ツールになると思いますので、ぜひ協力をお願いいたします。素晴らしいご提案をありがとうございました。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○3番（日比野早希君） 再質問をします。

紙媒体での普及を第1、メディアSNSなどでの普及を第2というお話でしたが、高校生の視点としては、デジタル、特にインスタグラムなどのSNSでの発信を重視した方が、より多くの方に取り組みを知っていただくことができ、紙よりも効果的ではないかと考えます。

町のお考えはいかがでしょう。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（長田忠典君） 日比野早希の再質問にお答えします。

再質問の紙媒体よりも、デジタルでの広報が効果的ではないかのご質問ですが、確かに紙の

マップに比べ、デジタルの方が拡散しやすく、情報の更新が容易であるといったメリットがあります。また、周辺の店舗や観光スポットの最新情報も入手しやすいことから、消費にもつながりやすいと考えております。一方で、これまでのロケ支援作品は多数あり、先ほどの答弁の通り、ロケ地マップはまだ作成されておられません。普段立ち入れないロケ地も多く含まれていることから、まずは紹介する情報を多数の実績の中から抽出整理する必要があります。

そこで、紙のマップを作る過程で情報の整理を進め、完成した紙のマップは、JRの駅や道の駅総合文化会館など、多くの方がこられる施設に置く他、PDF化又は電子書籍化してSNSで発信してまいりたいと考えております。

なお、デジタルマップについてであります。現在、小山町では、町のホームページのリニューアルをやっておる中で、Googleマップを埋め込む機能を追加いたします。まずできることとして整理したロケ地の情報を、スポット表示できるように調整していきたいと考えております。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○4番（徳田唯花君） 再質問をします。

取り組みの一環として、ゆくゆくは体験活動のスタンプラリーを実施し、来てくださった方に舞台となった作品と関わりのあるお土産をお渡しするのはいかがでしょうか。そうすることで、より思い出深い旅を提供することができると思います。

町のお考えはいかがでしょうか。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（長田忠典君） 徳田唯花議員の再質問にお答えいたします。

再質問のスタンプラリーの実施についてであります。スタンプラリーは、複数の場所を来訪者が回遊することになりますので、とても良い考えであると思います。これにはスマホアプリのデジタル観光マップを活用した事例が県内でも多く実施されておりますので、来訪していただき処方していただくような仕組みを、小山高校の皆様と一緒に研究していきたいと考えております。ぜひよろしく願いいたします。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○3番（日比野早希君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（渡邊瑛太君） 次に、5番 原田和奏君、6番 小池 葵君、7番 伊藤春奈君。

○5番（原田和奏君） 3人を代表して「地域と高校生の連携を強める取り組み」について質問します。

小山町では地域と高校生の交流が少なく、関係があまり深くないと感じます。地域とのつなが

りが弱いと、災害時などの緊急時に助け合える体制をつくることも難しくなります。そこで、普段から地域との関係を築いておくことが大切だと考えました。

そこで、地域の方と高校生と一緒に参加できる活動を充実させてはいかがでしょうか。例えば、地域の運動場や体育館、また、小山高校のグラウンドや体育館などを使って高校生が講師となり、地域の人たち向けにスポーツ教室やスマホ教室を開設したり、反対に地域の人たちに講師になっていただき、クラフトや料理を高校生に教えていただきます。そうすることで、片方が受け身になることがなく、対等な関係を築けると考えます。実際に現在でもこういった活動を行われているかとは思いますが、高校生への周知が少なく、参加する人が少ないように感じられます。そのため、高校生が地域ボランティアや体験活動に積極的に参加できるような仕組みを作っていくことも必要だと思います。

こうした活動を通して、地域の人と高校生がお互いの人柄を知り、信頼関係を築くことができます。地域の人たちにとっては、若者は活気を感じられ、高校生にとっては、地元に貢献する喜びや責任を学ぶ良い機会になります。

地域と高校生がつながることで、普段の暮らしも、いざというときの助け合いも、より強いものになるはずです。私はこのような取り組みを通じて、地域全体が温かく支え合える小山町になってほしいと考えます。

以上の点について、町の考えをお聞きます。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○教育次長（大庭和広君） 原田和奏議員、小池葵議員、伊藤春奈議員にお答えします。

地域と高校生の皆さんが日頃から関わり合い、信頼関係を築くことは、災害時の助け合いはもちろん、地域の活力向上にもつながる、とても大切なことだと考えております。

ご提案のように、高校生が講師となって地域の方に教えたり、地域の方が高校生に技術や知識を伝えたりする活動はお互いを理解し合う良い機会になりますし、対等な関係づくりという点でも非常に意義のある取り組みだと思います。

本町では、地域の方を講師としてお迎えし、プログラミングやアロマセラピー、パンづくり、ヨガなど、様々な分野の教室や講座を開催しています。参加者の対象も幼児から高齢者まで幅広く、こうした場に高校生の皆さんが加わっていただくことで、自然な形で地域の皆さんとの交流を深めることができると考えております。

また、「町民講座」や「ふるさと発見講座」では、本町の歴史や自然、文化などを学ぶことができ、町の魅力を改めて感じる良い機会にもなっています。

これまでの小山高校の皆さんと交流を深める取り組みといたしましては、ダンス部や吹奏楽部の皆さんに「金太郎夏まつり」を始め、「富士マラソンフェスタ」や「町民体育大会」などのイベントで演技や演奏を披露していただいたり、運営のお手伝いをしていただきました。

今後は、これらの講座や体験活動について、高校生の皆さんにも、よりわかりやすく情報をお

届けられるよう、高校や関係団体と連携しながら周知の方法を工夫してまいります。

特に、小山町公式LINEでは、では、地域行事や各種講座などの案内を多数発信しておりますので、ぜひ多くの生徒の皆さんのご登録をお願いしたいと考えております。

また、皆さんのアイデアを取り入れながら、高校生が地域の一員として活躍できる新しい機会づくりについても検討していきたいと考えております。

その一例として、小山高校講座として、スマートフォンの扱いに長けている高校生が講師となってスマホ講座を開いてみるのはどうでしょうか。本町としましては、地域と高校生がともに学び合い、支え合うことで、温かく活気ある小山町の実現に繋がるよう、引き続き取り組んでまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○5番（原田和奏君） 再質問します。

スマートフォン講座の対象者はどのような年代層を想定されていますでしょうか。もし幼い子ども達も対象とするのであれば、スマホの危険性という部分についても留意しながら慎重に教えるべきだと考えますが、それについて町のご意見をいただきたいです。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○教育次長（大庭和広君） 原田和奏議員の再質問にお答えをいたします。

スマホ講座の対象者の年齢層につきましては、まずは高齢者層を対象と考えております。

町では現在、町からの情報発信や各種申請など、インターネット等を使用している形態が多くなっております。

小山町公式アプリであります健康マイレージアプリの「WoLn」や地域通貨の「KINCA」などもスマートフォンでの利用ができるようになりましたので、高齢者の皆様にも快適な生活が送れるよう、スマートフォンの使い方について初歩から学ぶことができる講座を開講できればと考えております。

一方で、子どもたちに対し、スマートフォンの危険性を伝えることも必要であると考えておりますので、親子で参加できる講座もあわせて検討してまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○6番（小池 葵君） 再質問します。

ご答弁の中で、「スマホ講座のように高校生が地域の方に教える活動」についてご提案をいただきました。こうした活動は、とても意義のあるものだと思いますが、一度きりの講座やイベントで終わってしまうと、継続的な関係づくりにはつながりにくいのではないかと感じます。今後、こうした取り組みを単発の活動にとどめず、高校生と地域の方が定期的に交流・協働できる仕組みとして継続していくお考えはありますか。その際に、高校生自身が企画段階から関わるような

体制作りも検討されているでしょうか。

町の考えをお聞きます。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○教育次長（大庭和広君） 小池葵議員の再質問にお答えをいたします。

議員のご指摘のとおり、単発な講座ですと継続的な関係づくりの構築が難しいと考えます。

そのため、例えばスマートフォン講座を例にとりますと、まずは初歩的な内容の講座を行い、受講者の習熟度に応じて中級、上級へとステップアップしながら受講できるような、シリーズ化した講座の開講も有益かと考えております。シリーズ化することにより、受講者と講師である高校生の皆さんとの間に良好な関係が構築されるとともに、講座の内容や地域のイベントなどを相互に話し合う機会も生まれることから、高校生と地域の方との定期的な交流や協働ができるのではないかと思います。

こうした講座の開講には、高校生の皆さんからのアイデアが不可欠であると考えておりますので、意見交換や企画検討を行う場を設けることについて積極的に検討してまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○6番（伊藤春奈君） 再質問します。

小山町公式LINEでの発信というお話がありましたが、LINEよりもInstagramの方が高校生の情報源としては身近と感じています。Instagramでの告知についてはどのように考えていますでしょうか。Instagramに載せる内容としては、地域行事の案内だけでなく、活動の様子なども載せてみるのはいかがでしょうか。

町のご意見をお伺いします。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○教育次長（大庭和広君） 伊藤春奈議員の再質問にお答えをいたします。

現在、本町では公式LINEの他、町ホームページや公式Instagramでも情報発信を行っております。LINEでは、町のLINEに登録している方にプッシュ式で、生活情報やイベント情報などその方に必要な情報を発信しておりますので、興味のある特定の情報が必要な方には、大変有効的な手段であると考えております。

また、Instagramでは町の魅力やイベントの活動状況などを中心に発信していますので、今後も高校生が情報を得る手段としてInstagramをさらに充実させていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再々質問はありませんか。

○5番（原田和奏君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（渡邊瑛太君） 次に、8番 近藤志音君、10番 梶 碧桜君、11番 佐藤美有君。

○8番（近藤志音君） 4人を代表して、若者の地元定着と地域活性化の観点から、筥陵祭を通じた小山高生と小山町の交流について質問します。

まず、現在、私達高校生が小山町について深く知る機会は限られており、このままでは将来のUターン促進につながりません。また、小山高校のクラス数減少に伴う筥陵祭の規模縮小も懸念されています。筥陵祭の規模が縮小された場合時間を持て余して、せっかくの祭りで退屈してしまう生徒が出てしまう懸念があります。しかし、私達は来年度の筥陵祭を決して生徒が退屈することがなく、例年以上に盛り上がるものとしてと考えています。もちろん自分たち生徒も全力で盛り上げますが、自分たちの時間や力では及ばないところもあります。

そこで、私達は筥陵祭を学校と地域が一体となって盛り上げ、生徒と町民が交流を深めることが必要だと考えます。

他自治体の事例を見ると、神奈川県西湘高校では地元企業と連携した特産品販売を文化祭で行い、生徒の学びと地域PRを両立させています。岡山県の和交閑谷高校では文化祭を「地域の祭典」として運営し、住民との交流を深めています。これらの事例から、文化祭における地域連携は、生徒の地元への愛着を育み、地域の経済、文化に貢献できるという良い点があると考えます。

しかし一方で、連携によるブース運営などが生徒や教員の負担増となり、協力いただく商店や町の労力が増加するという改善すべき点も存在します。これを解消するため、生徒の活動は希望者によるボランティアに限定し、町が学校と商店などの連携を行うことで、負担を最小限に抑える必要があると考えます。

これらの良い点と改善点を理解した上で、筥陵祭に小山町の商店や特産品の販売、体験ブースを設け、町の広報と連携した告知を行うなど、文化祭を通じた地域交流について、町の考えをお聞きします。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（岩田幸生君） 近藤志音議員、佐々木慎之介議員、梶碧桜議員、佐藤美有議員のご質問にお答えいたします。

本町では、小山高校生など若い皆さんが様々な機会を通じて地域の方々と関わり、地元の魅力を知ることが、将来のまちづくりにつながる大切なことと考えております。

小山高校のクラス数の減少や若者の流出防止は、本町でも課題となっており、筥陵祭を地域と一体となって盛り上げたいという皆さんの提案は、地域の活性化や若者の地元定着の観点からも非常に意義のある取り組みであると感じております。

筥陵祭において、町内の特産品や店舗の紹介、地元企業の活動紹介、観光スポットやイベント情報の発信などを行うことで、高校生と地域を結ぶ新たな交流の場となることが期待されます。こうした取り組みを通じて、生徒の皆さんが地元の魅力を改めて実感し、地域への誇りや愛着を

深めていただければと考えています。

また、笙陵祭だけでなく、「おやまち商工祭」や「富士山金太郎まつり」、「おやまレトロ散歩」など、町内で開催される様々なイベントにも出展やボランティアなどの形で積極的に参加してもらうことで、学校と地域が協力しながら、様々な場面で交流を重ねていくことが、若い世代の地元定着や地域の活性化につながるものと考えております。

今後も町として、商工会や企業懇話会、観光協会など関係団体と連携しながら、高校生の皆さんが地域で活躍できる機会をさらに広げていけるよう、学校との連携を一層深めてまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○8番（近藤志音君） 再質問をします。

町との連携が実現した場合、笙陵祭において、地域のPR活動のブースを設けることを検討したいと考えています。

そこで問題になるのは、どう高校生に興味を持ってもらい、巻き込んでいくかという点です。高校生が関心を持ちやすいものといえば、やはり「食べ物」など身近なテーマだと思います。ですが、町としては、特にどのようなことに高校生が興味を持ってほしいと考えておられるでしょうか。

また、今年の笙陵祭では、部活動のブースを回ってもらうためにスタンプラリーを行いました。しかし、景品目的にスタンプを集めるだけで、ブースの内容をしっかりと見てもらえなかったという課題がありました。この経験から、ただ物で参加を促すだけでなく、参加した過程で内容そのものに興味を持ってもらう工夫が大切だと感じてきました。このような視点を踏まえて、町として高校生が興味を持ってもらえる地域のPRの方法についてどのように考えているか、町のお考えをお聞きします。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（岩田幸生君） 近藤志音議員の再質問にお答えいたします。

ご指摘の通り、単に「物」で関心を引くのではなく、参加を通じて地域の魅力そのものに関心を持ってもらう工夫が重要だと考えております。

町としては、高校生の皆さんが身近に感じやすい「食」や「環境」、「観光」などを切り口に、体験型や参加型のPRを行うことが効果的だと考えています。例えば、町の特産品を使った商品開発のアイデア募集やSNSを活用した観光スポット紹介、地域イベントの企画提案など、高校生が自ら関わられる仕組みづくりを進めていきたいと考えております。

今後も、学校や関係団体と連携しながら、高校生が地域の魅力を発見し、主体的に発信できるような取り組みを検討してまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○11番（佐藤美有君） 再質問をします。

町と学校が協力して文化祭を作り上げることができるとなった場合、例えばですが、町内の飲食店の力をお借りすることも一案だと考えています。この町に詳しい皆さんの目から見て、小山町ならではのおすすめの食べ物や特産品にはどのようなものがありますか。また、それらを文化祭で生かすとしたら、どのような形が考えられるか、町の考えをお聞きます。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（岩田幸生君） 佐藤美有議員の再質問にお答えいたします。

小山町には、道の駅で販売されている「金太郎バウム」や「水かけ菜漬」など、地元の新鮮な農産物や特産品のほか、和菓子店の人気商品「金太郎の熊どら」や「わさびもなか」など、小山町ならではの魅力ある食がそろっています。

笙陵祭でこれらを生かす方法としては、例えば、道の駅と連携した地元食材を使った限定メニューの販売や、特産品紹介ブースの設置、地元銘菓の販売コーナーの設置、高校生による商品紹介や試食企画などが考えられます。

こうした取り組みを通じて、高校生が地域の食や文化に触れながら、町の魅力を自ら発信することができ、学校と地域が一体となった交流の場になると考えております。

町としましても、道の駅や商工会、地元店舗と連携しながら、実現に向けた協力体制を検討してまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再質問はありませんか。

○10番（梶 碧桜君） 再質問をします。

小山町内のイベントへのボランティア参加について質問します。

ボランティア参加したいという意思を持っていても、交通手段の確保や交通費の負担といった理由から、参加を断念してしまう高校生がいます。特に、裾野や御殿場から通う生徒は移動が難しいことが大きな課題です。そのため、町として、高校生ボランティアの交通手段の確保や交通費のサポートを行うことで参加しやすくなり、結果的に地域の活動への参加者増加につながると考えます。

そこで、高校生ボランティアの参加を促すために、交通面での支援を行う予定はありますか。

町の考えをお聞きます。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（岩田幸生君） 梶碧桜議員の再質問にお答えいたします。

ご指摘の通り、交通手段の確保は、高校生が地域イベントへ参加する上での大きな課題であると認識しております。

町としましても、ボランティア活動への参加を促進するためには、参加しやすい環境づくりが重要だと考えております。

現在、「笛まつり」においては、小山高校から足柄峠まで送迎バスを運行し、弓道部の参加を支援しております。

こうした支援を通じて、高校生の皆さんが地域活動により参加しやすい環境を整え、地域との交流が一層深まるよう取り組んでまいります。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再々質問はありませんか。

○8番（近藤志音君） 再々質問をします。

高校生が興味を持てる地域のPR方法について参加型やSNSなどが挙げられましたが、多くのボランティアがある中で、笙陵祭を始めとしたプロジェクトとしてするのはどうでしょうか。

町の考えをお聞きします。

○議長（渡邊瑛太君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（岩田幸生君） 近藤志音議員の再々質問にお答えいたします。

SNS等の情報発信における再々質問ですけれども、本年6月7日に第37回の笙陵祭を実施したところであります。吹奏楽部による演奏や有志団体による演奏などステージを行うとともに、1年生は学校の中を彩り、2・3年生による展示や3年生については模擬店などを行っていると同っております。

歴史ある笙陵祭も来年度で38回を迎えることとなります。先ほど、町のホームページでいろいろな情報発信もごさいますけれども更なる小山高のホームページの活用やSNSの情報発信を共に、小山高校生徒を作り上げていただきたいと思いますと考えております。

以上であります。

○議長（渡邊瑛太君） 再々質問はありませんか。

○8番（近藤志音君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（渡邊瑛太君） これで一般質問を終わります。

ここで、議長の私から皆さんへ御挨拶を申し上げます。

本日は、長い時間ありがとうございました。

高校生である私達が、小山町の課題や未来について真剣に話し合い、皆様に提言することができ、とても貴重な経験になりました。

私達の声は大人の皆様から見れば小さなものかもしれませんが、その一つ一つがまちの未来を考える新しいきっかけになれば嬉しく思います。

議長として至らない点があったかもしれませんが、温かく見守ってくださり心より感謝いたします。

本日は大変ありがとうございました。

(一同拍手)

○議長（渡邊瑛太君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

これもちまして、令和7年小山町高校生議会を閉会します。

午後2時08分 閉会

---

○総務課長（渡邊 徹君） 皆様お疲れさまでした。

引き続き、ただいまの高校生議会につきまして、4人の方から講評をいただきたいと思います。

はじめに、小山町長 込山正秀が申し上げます。

○町長（込山正秀君） 大変ご苦労様でございました。

今日私答弁の機会がなかったんですがちょっと残念と思っております。各部長が今日は丁寧に答弁してくれました。また、再質問も受けさせていただきました。今日のお答えはしっかりと実行していきたいと、このように考えております。

最初のご質問された件であります、通学路の街灯の設置であります、これについては部長答弁の通りですね、このような形で関係機関と早期に調整をして、1日も早くですね、皆さん方の足元が明るくなるようにしていきたいと、こんなふうに考えております。

次に、この中での二つ目の質問の中で商業施設の誘致についてございました。これについては私、今回の町長選挙のマニフェストで、北郷地区にですね、商業店舗を誘致すると、このようなお約束をさせていただいております。今、いろいろこれについてですね、あちらこちらに声をかけてやってきました。二つほどの企業とですね、話をさせていただいてきましたが、まだ決まっておられません。一つ最後ですね、二つ目の企業についてはですね、お断りの理由がですね、商圈ですね、要するに店の周りの人口、商圈人口が少なすぎると、これじゃちょっとお店を出すことができないよとこんな理由もいただきましたが、まだまだですね、これからいくつかのですね、事業者に対してアプローチをしてやっていきたいと思っております。

私の考えていたのは、ドラッグストアとスーパーを併合した施設ということで結構規模の大きい話をしてきましたんで、こういうのはもうちょっと修正をしてですね、どういう形が来ていただけるような形の方向に持っていこうとそんなことで考えております。残念ながら足柄についてはちょっと今のところですね、順番として北郷が終わったら足柄とこんな形で一つご承知をいただきたいと思っております。

次に2番目のご質問でございましたが、メディア作品の聖地巡りですね。これについてはいつでしたか、1年くらい前になろうかと思いますが東京の事業者がやってくれました。なかなか好評だったと聞いております。これらについてもですね、おっしゃる通り、町独自で聖地をしっかりとですね、アピールできるような資料を作ってですね、町が主導で、聖地巡りもやってみたいなとこんな思いをいたしております。

先ほどの部長の答弁にありました通りですね、ロケ地マップですね、これについては作成に向けて準備を進めてまいりますとこういう答弁でございますので、これらはすぐに手がけていき

いと思います。

最後の4番目ですね、これは笙陵祭を通した小山高校生と小山町との交流ですね、これぜひやりたいですね。ぜひですね、今まで私も笙陵祭に行ったことないですよ、本当の話ですね。そういうことでどういう内容がちょっと大変恐縮なんですけど存じておりませんが、またいろいろお話聞かせていただいていますね、これについては町とですね、学校側と皆さん方と三者でお話させていただいてですね、どういう形が一番いいかですね、これから検討させていただいて、いい方向に持っていきたくてこんなふうを考えております。いろいろ町が入ればこのお祭りもですね、結構大きなお祭りになるのかなとですね、先ほど提案がありました通りですね、いろいろ飲食問題、物販問題、これらもだから町が応援してればできないことないと、こんなふうに思いますので、これについてもですね、一緒にやってみましょう。

また、小山町で開催しているおやまっち商工祭、富士山金太郎まつり、またおやまレトロ散歩などですね、また皆さん方に参加していただくようなですね、またご案内をしっかりと出させていただいて、一緒にイベントを盛り上げていただきたいと、こんなことをお願いをさせていただきたいと思います。

そういうことですね、全部が講評になっておりませんがですね。どうかこれからもですね小山高校と小山町一帯でございまして、どうか一つですね、いろいろ交流を深くしながら、小山高校、小山町として盛り立てていきますし、小山高校生は小山町しっかり盛り上げていただきたいと、こんなことをお願いしまして、講評にさせていただきます。

ありがとうございました。

○総務課長（渡邊 徹君） 次に、小山町議会議長 鈴木 豊様、お願いします。

○議長（鈴木 豊君） 高校生の議員の皆さん、そして議長を務められました渡邊さん、大変お疲れ様でした。

皆さんの大変堂々とした質問ぶりや議長の議事進行に感服したところであります。小山町の地域振興やまちづくりなどについての的確な質問をしております町当局も回答に苦慮している様子が見られました。本日参加された高校生議員の皆様には、今日の高校生議会の経験をご家族や友人など周りの人にも話を進めてほしいと思います。

平成27年6月に公職選挙法が改正され、選挙権の年齢が18歳へと引き下げられました。高校生議員の皆さんも、高校3年生で誕生日を迎えられますと、選挙権を有することとなります。また、町議会議員の被選挙権は25歳以上でありますので、本日の経験を生かし、将来の進路として考えてみたらいかがでしょうか。

この高校生議会は若者の政治離れということがかねてから指摘されている中で、政治への関心、あるいは理解というものを深めてもらうことが目的の一つであります。政治、特に地方行政というのは決して難しいものではなく、皆様の一番身近なところで動いているものであります。ぜひ、関心を持っていただき、今後も積極的に社会参加を心がけていただけたらありがたいと思います。

そして何よりも健康に心がけ、勉学やスポーツ、そして自分の夢に向かって、より一層高校生活を励んでいただきたいと思います。

最後に本日出席の当局の皆様や先生方には、当議会の開催にご尽力いただきましたことを心から感謝申し上げます。講評とさせていただきます。

本日はご苦労さまでした。

○総務課長（渡邊 徹君） 次に、小山町教育長 勝俣純が申し上げます。

○教育長（勝俣 純君） 皆さんご苦労さまでした。

今年聞いていて、本当に一生懸命メモを取りながら、今皆さんが言ってることを具現化するためには、教育委員会としてどういうふうにしていったらいいのかなということを真剣に考えさせていただきました。高校生議会って何でやるんだろう。やっぱり大きな目的が、二つあるのかなと思います。一つは、政治を学ぶ場、主権者教育の実践の場であると思います。もう一つは、社会を変える第一歩を実感する場である。この二つかなというふうにして感じているんですけども、いかがだったでしょうか。例えば笙陵祭についていろいろご意見出ましたけれども、これを具体的に本当に今皆さんが言ったような形に変えていくためには、今後どのようなことをしていけばいいのか。そんなことをまた改めて一緒に考えられると素晴らしいなというふうに思っているところです。

小山町では、0歳から18歳までその年齢の子ども達を発達段階に応じてしっかりと育てていきたい、そういうふうな目標を持っています。ですから、町としては、小山高校にもどんどんどんいろいろな意見を言わせてもらって、小山高校からの意見もどんどん聞いて、より良い高校生活を送ってほしいというふうに考えているところです。実際に、小山高校に入った3年間は皆さん、小山町民だと思ってください。今、御殿場の子たちもいますけれど裾野の子たちもいますけれども、私はそのような気持ちで小山高校の生徒さんを迎えています。先ほどまで実際に後ろの傍聴席には小山高校出身の課長さんが何人か来てくれて、温かいんだなと、やっぱり小山の小山高校なんだなということを改めて感じているところでした。

いずれにしても、私達は小山高校あつての小山町、小山町あつての小山高校そんなふうにかれからも末永く小山高とお付き合いできることをできればいいなというふうに思っています。最後に教育委員会関係で出た第3の地域との高校生の交流につきまして、この講座をどういうふうにやっていったらいいかっていうことにつきましては、具体的に生涯学習課等を含めてどうでしょう、小山高校の生徒会さんと今後話を進めさせていただくそんな形がとれたら面白いんじゃないのかなというふうに思います。

そのような形で具体的に影響が何かのスタートになることを期待して挨拶とさせていただきます。

今日のご苦労様でした。

○総務課長（渡邊 徹君） 最後に、県立小山高等学校校長、櫻井教文様、お願いいたします。

○小山高等学校校長（櫻井教文君） まず初めに、小山高生に対してですね、このような晴れの場を用意していただきまして、このような機会を設けることに関わってくださった全ての皆さんにお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

高校生にとっては、本当にかげがえのない貴重な経験になったかと思います。私も昨年赴任してこの会は2回目になります。この会に参加、2回している生徒もいますけれども昨年より一歩また踏み込んだ提案ができたんじゃないかなと感じています。

生徒のお話の中にもありましたように今、高等学校も静岡県内の各地の高等学校が非常に難しい時期にあたっています。この北駿地区の高校もその例外ではありません。そういった中で、どのような魅力を持って地域にある高校として存立していくのか、そういうことを生徒自身も考えている様子がよく伝わってきたなと思います。もちろん、自分たち自身でもっともっと考えていかなければいけない部分というのもあるかと思いますが、ここ1年、1年半生徒の様子を見ていて、生徒自身は本当に地域に対して何かをしたい、何かこう、地域の力になれないかという思いを、大人が思ってる以上に持っているなというのを私この頃感じているところです。そういった生徒の思いを少しでも実現できるように環境を整えるそれが大人の役割かなというふうに感じております。学校もそうですし、町そして県、そういったところと連携を図りながら、そういった思いを形にできるように努力をしていきたいなということを感じさせられた会となりました。

高校生の皆さんにとっても一つ一つの御討議の中で、自分たちがこれから何をやっていくのか、何を目指していくのか、そういうのを強く感じられた1日になったのではないかと思います。また、これからの成長を期待しています。

本日は本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

○総務課長（渡邊 徹君） どうもありがとうございました。

以上で、高校生議会を終了とさせていただきます。

午後2時22分 終了